

ちょっと一言…

2024年が始まりました。根っからのポジティブ性格なので毎年この時期はワクワクしありません。「今年はどうなるのだろう？」そう考えてもそのようになった年はなく、結局、毎年想像つかない一年を過ごしている気がします。人と出会って、人と別れて、人の間で生きているのですからそうですね。人も自然もわからないから面白い。わからないから知りたくなる。「わからない」を楽しみ、皆さんには「わかった」と思ってもらえる一年にしたいと思います。



井内 聖

IUCHI SEI

地域プロジェクトマネージャー
子育て・教育総合専門員

12月の活動報告

- ・ 校長会、教頭会への参加
- ・ 教育委員会への参加
- ・ 地域学校協働本部設立準備
- ・ 地域学校協働本部学習会実施 (子どもにやさしいまちづくりPJシンポジウムの開催)
- ・ 部活動地域移行支援
- ・ タブレット持ち帰り調査
- ・ 地域高齢者交流支援

※令和5年度は早来地区を中心に活動します。令和6年度は追分地区を中心に活動します。

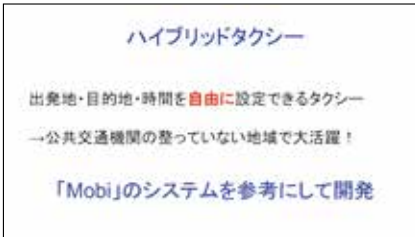
追分中学校「まちづくり学習」提言 (一部)

< 防災 >



そもそも防災公園とは？
 防災公園とは、災害時に人々の命を守る役割を担い、都市型の防災構造を強化するために整備された公園。
普段＝普通の公園 (遊べる場所)
非常時＝避難場所

< 公共交通と福祉 >



< メディア活用 >



アニメを通して何を伝えるか
 ストーリーの背景に安平町の土地や物を使用することでまちの魅力を発信し、見ている人に「実際に行ってみよう」と興味を持たせる
= 『聖地化』させて人を集める！

町職員からのレクチャー (町の特徴など)



提言発表 (町政策推進課へのプレゼン)



令和5年12月19日実施

「地域に学校って必要？」子どもにやさしいまちPJシンポジウム

12月19日(火)追分公民館にてシンポジウムが開催されました。当日は国立教育政策研究所の志々田まなみ氏より学校運営協議会や地域学校協働本部についての講演とそれに対するグループディスカッションなどを行いました。

「子どもが当たり前に見える」

そのようなまちをつくるためには、子どもが一番多くいて、一番長く過ごす場所、学校が核になるのは間違いありません。今月の追分中学校での実践にあるとおり、「学校生活の当事者は生徒自身」「子ども自身が学校生活をつくる、学校生活を楽しくつくりあげる」そのことが子どもにやさしいまちの第一歩になるのではないかと思います。